

小名濱町カフェー 人氣 投票に就いて

戀の目輝やく真ッ赤な色に
胸のエプロンどうそまる
戀の小名濱涙雨……

ナンカンと云ふカンエー行慾の本能を満足させやうと
進曲が東都一流作家に依つする不良モゴの群が、愛慾
で今正に作中中だぞうな。葛藤、さながらにカンエー
世界的有名な花の都巴里は、行進曲を奏でて居るのであ
戀の巴里としても、また有る。近來我が東都にカンエー
名だ、それは市中に存在する。一繁殖は其の數著しく激
る大小多数のカンエーに戀増した、種々その筋の御達
を賣り「コヒ」を賣るウエーとやらで嚴しい法規を設け
トレスが燃える様な赤い血を流した、猶且、愛レンの
潮を白いエプロンに包んで大輪巻は依然として變らな
戀を得ようとする者、失せ、時勢の流れによつて變
ンにモダニに悩む者の心理、異性を求める人間の共通的
を良く諒察して遊夜郎の唯 弱點に附け込んで、彼等を
一の慰者として何時も時ソッさせて居るのだ、本能
がらに彼女等は「コヒ」に生きたいコヒにし、カタナイ愛
カンエーのハナヤカな事は必要のないカンエーかも知
獨り巴里のみではない、必要なコヒにし、カタナイ愛
世界の大都市にはいづれも「コヒ」を口にし、いやしくも
流行のハを競ふ一流の大カ愛を求める者に對しては至
ンエーがあつて、青春の血の上のパラダイスでなければ
高鳴る青年ンエーや不良老ならぬ。

年の酔客を相手に一大コヒ 筆者は去る日東京本郷の燕
の拳闘をチャズ入りで續け 樂軒に寄つて「コヒ」を飲
てゐる。
赤い酒青い酒白い酒にトウ ンエーを飲くと、金二十五
酔して失神の惱から去ら 也、その當時慾を求めて居
うとアセル若人、ドクダミ なかつた記者の腦裡には隨
の様なチンを飲んで、愛慾 分タイナアといふ不快を
の渦中に自分から捲んで肉 へた、併し何物かを得よ

うとするものにして、コン相手に甘いそしてタダメ
ナ不快を感ずる所以は「コヒ」の運命を判じて見るの
尤も小名濱のカンエーでも一興だろ、徒然のあま
かを漁らうとしても「コヒ」のハッポをポケット
一「コヒ」二十銭也とボラレにしてカンエーの散策も何
ては一夜にして、否一時にかの收獲がないともいわれ
して慾求はソツチノケ、ギない、常磐新聞社がこの流
ヤンとせざるを得ない、行のカンエーに目を輝かせ
兎に角カンエーは現代の尖で、人氣投票を断行した事
端的流行として津々裏々まはこれ、時勢の尖端的な考
で白いカーテンを張つて居へとも見られよう。
、而して都會のカンエー 諸君が新聞社の意志を諒と
には都會の様な悪魔的なラセられてひいさくのカン
ブションがあると同様、寒エーの爲新聞社のためドン
村のカンエーにも郷に従つて御社に下されるならば
た「コヒ」の争闘がなければ、新聞社としての幸甚至上
らない、カンエーは一つの至極
コヒの殿堂である。夏の夕下記投票規定御含みの上議
幕から夜の張が全くだされつて御社投票御下さらん
た暗黒な世界に「コヒ」熱の事を切に願つてをんを置
「コヒ」の様なサンデリヤの下
で白いエプロンの女給君を
エムエフ生述

小名濱町カフェー 人氣とうひよう 應募規定

- 一、用紙 本紙印刷投票用紙に限る
 - 二、宛名 小名濱町 常磐新聞社
 - 三、締切 昭和五年八月五日 午後十二時當分迄
 - 四、特選票 一軒一千五百票以上 但高票数を以て順位を定む
 - 五、発表 昭和五年八月十日 本紙上に於て
- 賞品は発表後三日以内に送呈す
- 主催 常磐新聞社

◆賞品 價格拾圓の物

- 壹等 白木屋特製 特大花輪 壹ヶ一名
- 貳等 白木屋特製 同 壹ヶ一名
- 參等 白木屋特製 同 壹ヶ一名

小名濱町カフエー
人氣投票用紙
屋 號
カフエー
主催 常磐新聞社

文屋商店
小名濱町

福島縣平町
高久病院
電話五一三番

醫學士 高久 忠
新海醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹 菊雄

内科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科

好機逸す可らざる
有望なる廣告

小名濱町古港三十一番地濱通り目抜の場所
『酒〇醬油〇漬物類〇ゴム靴其他ザツ貨店』
右商品全部居抜の儘歸國に付き至急譲渡度お望の方は
左記之所と御來談相成度候也

古港三十一番地
永田 商店
中島下町三〇
舟田

船具 附屬品一式
機械油

小名濱水産株式會社
電話四十三番

藥附屬品一式

西村藥局
平町二丁目

磐城水産工業株式會社

社長 小野 晋平
社支配人 福尾伊太郎
小名濱町 電話六六一一〇番